

不退転

第 44 号
東江中学校
校長 神元 勉

手留照氏のエピソード

先日の講演会の講師である手留照(てるゑ)氏(砂川正美)氏のエピソードを紹介します。

■末つ子の4男がちょうど幼稚園の頃、夏の甲子園大会の真つ最中だった。「僕なんか夢がある。甲子園に出て活躍したい。お父さん、どんなしたら甲子園に行けるか教えてほしい」。6年生の長男を先頭に4人の息子たちが手留照氏の元へ真剣な顔でお願いにきた。「よし分かった、お前たちに俺が今から甲子園に行けるための5つのことを教える。これを信じて実行するって約束するんだって教えるよ」と手留照氏が言うと、息子たちは口々に「やるよ、約束するよ。続けて実行するから教えてほしい」と素直なまなざしで訴えた。「それじゃあ、一つ目はね」と手留照氏は話を始めた。4兄弟は父親の話に真剣に耳を傾けた。「夢を叶える黄金の5か条」は、この日始まった。そして彼らは一つ一つその日から真剣に取り組んだ。夢をかなえるために、ずっと信じてやり通していった。

- 1 自分の夢を決める。(頭に思い描いた夢を文字や絵、写真などの形にする。)
- 2 夢が叶ったときのカッコいい自分の姿を想像する。
- 3 自分のファン(自分の夢を叶えるために応援・

手助けしてくれる人)を増やすため、あいさつの達人になる。(あ↓相手より・い↓いつでも・さ↓先に・つ↓伝わるように)

- 4 コロコロ大作戦(WCや玄関で履物をそろえる)
- 5 ありがとう大作戦(いつでも人にも物にも感謝の気持ちをもつ)

手留照氏は、夢の甲子園に行くためには、投げるとか打つとか走るなどの他に大事なものがあるのでないかと考えた。大事なものは何かというと、運を自分のところに引き寄せられる力。運と言う字は運ぶと書く。自分で運んでくるために、誰かが運んでくれるために、まずは基礎的なあいさつだとか整理整頓とか道具を大事にすることなど、凡時徹底の大切さを息子たちに伝えたのだ。これを身につけた人が、投げる、打つ、走ると練習を積み重ねていって初めて甲子園を勝ち取ることができると話したのだ。4人の息子たちは、黄金の5か条を継続するような人間になっていった。そして、なおかつ息子たちには、足が速くなる方法、ボールを投げるときに肩肘が壊れないような体の使い方、キャッチボールが上手になる方法、ボールをうまく捕る捕り方、バットにボールをあてるコツ、体づくり、そのようなことも伝授した。手留照氏の言葉を素直に信じて継続して実践していった4人全員は、甲子園への夢をかなえることができた。手留照氏は、かなりの確率で甲子園の夢が叶うと黄金の5か条を息子たちに授けた。確かに、必ずしも甲子園に行けるとは誰も約束できるものではない。しかし、黄金の5か条は息子たちが大人になったときに絶対に役に立つと考え、続けるように導いた。社会人、大学生となった息子たちだが、今もなお、黄金の5か条をやり続けている。

2回目のふれあい給食

8日(木)に、2回目のふれあい給食がありました。今回は、区長さんや民生委員の皆さんをご案内したところ、許田区長さんと7名の民生委員の皆さんが参加してくれました。たまたま、トーカ子祝いの豪華な献立(赤飯、魚てんぷら、シカムドチ、干切り炒め)でしたので、和やかにおいしくいただけましたと思います。

ご協力、ありがとうございました。今後とも、本校の諸教育活動へのご理解とご支援をお願いいたします。

